授業概要

認知心理学は、心の働きを科学的に明らかにしようとする心理学の分野である。認知心理学Ⅱでは、情報処理アプローチを中心に知覚、記憶、思考、言語といった認知心理学の幅広い領域に関して、それぞれの領域を代表する基本的な理論・モデルを紹介する。授業では、情報の選択（注意）、パターン認知、ワーキングメモリ、長期記憶、知識の表象、問題解決などについて概観し、最新の知識を講義する。

授業計画

第1回	認知心理学について
第2回	認知神経科学について：認知の神経基盤
第3回	知覚：パターン認知、文脈効果、変化の見落とし
第4回	注意と意識：注意の理論、選択的聴取
第5回	短期記憶とワーキングメモリ：系列位置曲線、短期記憶からワーキングメモリへ
第6回	ワーキングメモリ：ワーキングメモリのモデル、個人差
第7回	記憶：符号化、検索、忘却
第8回	学習と長期記憶：顕在記憶、潜在記憶
第9回	日常記憶：再構成的記憶、自伝的記憶、目撃者の証言
第10回	知識の表象：スキーマ、概念とカテゴリー、意味のネットワークと活性化拡散
第11回	言語の理解と言語生産：読むこと、会話の理解、処理ステージ
第12回	問題解決：過去の経験は有効か？ 仮説検証と科学、問題解決の方略
第13回	判断・意思決定・推論：人は合理的か？ 複雑な意思決定、演繹的推論、日常的推論
第14回	意識的思考と無意識的思考：認知的無意識、潜在記憶、自動的行動
第15回	認知と感情：認知と感情の相互作用、ムードと記憶、感情と意思決定、不安と認知的バイアス
第16回	筆記試験あるいはレポート

到達目標

認知心理学にける基礎的な知識を学び、認知心理学の研究方法を理解する。日常生活の身近な問題に習得した認知心理学的手法を適用する。

履修上の注意

遅刻・欠席はしないこと。授業での質問や討論に積極的に参加すること。認知の働きについて、積極的に関連図書調べること。

予習復習

授業の進捗状況に合わせて配布資料などを参考に予習復習を行うこと。授業中に質問したり、意見を求めたりして、予習復習の確認をおこなうことがある。

評価方法

筆記試験あるいはレポートの内容を基本とし、出席状況、授業中の質問に対する解答、討論への参加度を考慮して評価する。

テキスト

資料を配布するので、特にテキストは指定しない。参考書は適宜授業で紹介する。